「すべての人の主」
使徒言行録 10 章 34－48 節

　コルネリウスの家に集まった人々を前にしてペトロはこう語り始めます。「神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。」(34 節)と。
　ペトロは「よくわかった」と言います。これは、今この瞬間に、はっきり分かったという意味です。では、何がよく分かったのでしょうか。それは、「神は人を分け隔てなさらない」ということです。そんなこと、私たちにしてみれば当たり前のことではないかと思うかもしれませんが、初代教会のユダヤ人たちには、そういう理解はありませんでした。ユダヤ人以外の異邦人は救われない。異邦人が救われるためには、割礼を施し、ユダヤ教に改宗する必要がある。それが当時のユダヤ教の常識でした。そして、ペトロもその常識の中に生きていたのです。
　ともすると私たちは、勝手に自分の基準を定めて相手のことを判断したり、分け隔てをしたりしてしまいます。まさにペトロも、ユダヤ人か異邦人かということで人を分け隔てしていたのです。しかしその過ちを正された。ペトロもその罪を悔い改めて、こう語り始めたのです。「どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです」(35 節)と。

　ここには、救いについて、とても大切なことが語られています。まず、救いの対象は、どんな国の人でも救われる、ユダヤ人、異邦人に関係なくすべての人に救いは用意されているということです。ただ、そのことは自動的に全員が救われるということとイコールではありません。その救いには、私たちに求められている応答があると言うのです。ペトロは、「神への畏れ、正しいことを行う必要がある」と言います。つまり、誰であっても救われる資格、権利を持っている。しかし、神さまに受け入れられるには、「神を畏れて正しいことを行う」という応答が求められているというのです。
　それではペトロがここで語っている「神を畏れて正しいことを行う」というのは、どういうことなのでしょうか。これをひと言で言えば、「神さまとの正しい関係を持つ」ということです。

　ペトロは、ここで神の御計画を語ります。ユダヤ人たちが、神に選ばれた民であるということは、確かに特別なことでした。ユダヤ人の中にイエス・キリストが遣わされて、救いの御業、出来事が起こったのです。しかしそれは、ユダヤ人たちが考えていたように、神の民である自分たちだけが救いを独占するために選ばれたのではありません。そこから、神の救いが全世界に及ぼされるため、全世界の祝福の基となるために、まずユダヤ人が選ばれたのです。
　そしてまた、イエスさまご自身が、使徒たちをお選びになりました。それは、イエス・キリストを証しする者として選ばれたのです。彼らも、優秀であったとか、学識があったとか、誠実な人だったという訳ではありません。神の選びは、ただ神の御心によるのであって、人の側には選ばれる条件や権利は何もありませんでした。ある者は漁師であり、ある者は人々から嫌われている職業の徴税人でした。そして十字架の時に

は、裏切ってしまうような者たちでした。けれども、イエスさまが名前を呼んで選ばれたので、彼らはキリストの使徒となったのです。
　使徒たちは、イエスさまが十字架に架かる前になさった出来事ことの証人であり、またイエスさまが死者の中から復活した後、一緒に食事をして、確かに甦られたことの証人です。そして、42 節にあるように「イエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと」、使徒たちにお命じになったのです。
　この使徒たちが宣べ伝えた審判者は、同時に罪を赦す方です。罪のゆえに神さまと敵対していた私たち。神さまとの関係が断絶していた私たち。だから、滅びの死に向かっていた私たち。その私たちのために、主イエス・キリストが十字架にかかって、死んでくださった。私たちは、皆、等しく、主イエスの十字架の贖いによって罪赦された者です。そのようにして、神さまとの間の平和を回復して頂いた者です。

　このことにおいてイエス・キリストは、すべての人の主であるのです。すべての人が、同じ恵みによって、罪赦され、神さまとの平和を回復されて神の子とされている。この救いは、どんな人にも等しく与えられている。世界中のすべての人が、イエス・キリストの十字架の愛の対象とされている。すべての人のために、イエス・キリストは、その命をささげられた。このイエス・キリストを信じて歩むこと、これが私たちの成しうる「正しいこと」です。そして神さまが、私たちに求めておられる応答です。
　神さまは、私たちが救われるために、私たちの行いの結果を求められることはありません。どのくらい行いをしたら救ってあげようとか、このくらいあったら認めてあげようなんてことはされません。しかし、イエスさまを愛し、イエスさまに従うという応答は求められているのです
　私たちも、すべての人の主であるイエス・キリストを信じて、神を畏れて正しいことを行う歩みができますように。